別紙・JKA補助事業　平成25年度　事前計画／自己評価書（1／5）

1. 要望事業者

法人格	社会福祉法人	設　立	1989年9月21日	事務担当者	所属部署（役職名）	しおさいの里等複合施設(副統括施設長兼事務長)	
		法人格取得	1989年9月21日				
名　称	フリガナ　ジョウエツクビキフクシカイ				氏　名	フリガナ　タケダ　ケイスケ	
	上越頸城福祉会					竹田圭介	
住　所	〒　949-3116 新潟県上越市大潟区犀潟410番地2				電　話	代表	0255346225
						担当者	0255346225
					FAX	代表	0255346217
						担当者	0255346217
代表者氏名（役職名）	フリガナ　ナイトウ　ヨシタダ				E-mail	代表	siosai03@joetsu.ne.jp
	内藤義忠(理事長)					担当者	siosai03@joetsu.ne.jp
				ホームページ	http://siosainosato.jp		
団体の使命・目的	目的：多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する。						
これまでの主な活動内容	第1種社会福祉事業：特別養護老人ホーム、障害者支援施設　第2種社会福祉事業：障害福祉サービス事業（自立訓練、就労支援、共同生活介護、共同生活援助、短期入所）、相談支援事業、地域活動支援センター事業、老人短期入所事業、老人デイサービスセンター事業　公益事業：居宅介護支援事業、地域包括支援センター事業					過去のJKA補助実績	
						無	いつから
						過去5年間のJKA補助実績	
事業の実施責任者の主な経歴・業績（研究補助は別記入）	理事長　内藤義忠（1959年日本ステンレス（株）入社、1999年住友金属建材（株）退社　2001年社会福祉法人上越頸城福祉会理事就任　2011年社会福祉法人上越頸城福祉会理事長就任）						
特記事項							

JKA使用欄	

別紙・JKA補助事業　平成25年度　事前計画／自己評価書（2／5）

項番	1	／	総事業項目数	1

2. 要望事業

補助事業名	平成25年度福祉車両の整備補助事業	事業形態	A：福祉車両の整備 [　02:（福祉）高齢者施設で使用する車両の整備　]
事業項目名	福祉車両の整備	公益目的事業情報	種類：4　事業区分：（18） 事業区分のチェックポイントに チェックポイントに沿っている [　　]
要望履歴	種別：（1）新規要望 複数年度要望：　年目／　年計画 継続要望：　年から[　　]年目　中断	当該事業に関し、他の団体に対する補助申請又は補助申請予定の有無	無 団体名称
事業費総額	4,300,000 円	事業コード	901000
補助金交付要望額	2,250,000 円	補助対象経費総額	3,000,000 円　補助率　3／4
委託事業の有無	無	委託比率	委託調査の有無：無　委託比率
委託想定先	1　2　3		
アピールポイント	本申請事業により、人と人とのつながり、地域の広がりに貢献します。		

3. 補助事業実施の必要性（意義）

作成日	平成24年9月12日	作成者	竹田圭介

○補助事業実施の必要性を、最終的に解決等を目指す社会的課題及び受益者（ニーズ）との関係で整理してください。
補助事業の結果（アウトプット）・成果（アウトカム）により、(2)の補助事業の直接的な目的を達成し、最終的には、社会的課題が改善、解消、解決等された社会等の状況「目指す姿」の実現［(1)の補助事業が最終的に目指すこと］を図ります。

（1）補助事業が最終的に目指すこと

社会的課題の現状と、この補助事業が最終的に目指す姿（課題が改善、解消、解決等された社会等の状況）を記入してください。

補助事業が最終的に目指すこと（社会的課題の改善、解消、解決等）	
社会的課題の現状	当法人の所在地である新潟県上越市は、人口約21万人に対し高齢者人口が約5万人（高齢化率25．82％）、そのうち要介護者数が1万人を超えています。また現在、特別養護老人ホームへの入所待機者が約1，400人存在（内、当施設待機者数500人）し、その受け皿となる介護サービスの提供が課題となっています。
目指す姿	～人と人とのつながり、地域のひろがりに貢献します～当複合施設を利用される皆様への「自立支援」を通して、地域に暮らすすべての方々にとって生活がより豊かに感じられるようにお互いを尊重し、支え合う社会の実現に向けて実践していきます。

（2）補助事業の直接的な目的

補助事業の結果（アウトプット）、成果（アウトカム）の直接的な効果により達成を目指す、補助事業の直接的な目的を記入してください。

補助事業の直接的な目的
福祉車両の整備により、より安全で快適かつ円滑な送迎運行体制を実現し、もって社会福祉の増進に寄与すること。

別紙・JKA補助事業　平成24年度　事前計画／自己評価書（3／5）

4. 補助事業の事前計画

補助事業

(1) 受益者（ニーズ）		(受益者)：当施設利用者（入所サービス及び居宅サービス）(ニーズ)：現在、所有している車両が新車登録から12年以上が経過し更新の必要性が高いこと、及び利用者の重度化へのニーズに対応するための車両整備の必要性があること
(2) 事業内容		現在、社会福祉法人上越頸城福祉会しおさいの里等複合施設では、特別養護老人ホーム（入所100名、短期入所14名）、障害者支援施設（入所20名、短期入所2名）、老人デイサービスセンター事業（30名）、居宅介護支援事業、地域包括支援センター事業を運営しています。複合施設全体で6台の福祉車両（車いす対応車）を所有し、利用者の送迎、外出、病院受診等に使用していますが、そのうち4台は新車登録から12年以上が経過いること、当地域が沿岸・積雪地域に属すること等から、車体の腐食・損傷やリフト機能の故障が目立つ現状となっています。今回、福祉車両を新規購入し、施設サービス及び居宅サービスの提供において、より安全で快適かつ円滑な送迎運行体制を構築することを計画しています。
事業の新規性		競輪マークの福祉車両を当地域に走らせることで競輪事業に対する、一般市民への周知・関心も図りたいと考えます。
事業の発展性		本事業の完了により、利用者サービスならびに利便性の向上、利用者の受入れ促進等の効果が期待できます。
実施計画	予算等	【事業の完了時期】　平成25年9月30日　　【スケジュール】 別添1：補助事業の概要のとおり　　【予算】 事業経費比較表のとおり
	実施場所	新潟県上越市内
実施体制		○事業を実施するメンバー構成：責任者・統括施設長（指揮命令・安全運転管理）、メンバー・生活相談員（現場調整）、介護職員（送迎付き添い）、運転員（運転）

(3) 達成目標	事業の実施結果	[指標] 導入時期	[目標値] 平成25年9月中	[具体的内容] 平成25年7月に入札を実施し、納期2ヶ月と仮定する
	事業の成果・波及	[指標] 1）月平均の延利用者数 2）利用者の満足度	[目標値] 1）300人2）80%	[具体的内容] 1）一日10名の利用者の送迎に、導入予定の福祉車両を月30日間利用する見込みで計算した。2）平成27年2月に、利用者とその家族にアンケート調査を行う。回答者の8割から「満足」を回答を得られるよう運用に努める。
(4) 情報発信	事業の結果	[指標] 1. 地域への周知：施設広報2. 法人内部への周知：施設広報3. 広く世間一般への周知：ホームページ掲載	[目標値] 1. 地域への周知：600部2. 法人内部への周知：160部3. 広く世間一般への周知：500アクセス（月平均）	[具体的内容] 1. 地域への周知：施設広報（利用者、地域住民、関係機関・団体等に定期的に配布している）2. 法人内部への周知：施設広報（全職員に定期的に配布している）3. 広く世間一般への周知：ホームページ（月平均500件のアクセスがある）
	競輪・オートレース補助金による事業であること	[指標] 1. 地域への周知：施設広報2. 法人内部への周知：施設広報3. 広く世間一般への周知：ホームページ掲載	[目標値] 1. 地域への周知：600部2. 法人内部への周知：160部3. 広く世間一般への周知：500アクセス（月平均）	[具体的内容] 1. 地域への周知：施設広報（利用者、地域住民、関係機関・団体等に定期的に配布している）2. 法人内部への周知：施設広報（全職員に定期的に配布している）3. 広く世間一般への周知：ホームページ（月平均500件のアクセスがある）
(5) 自己評価の体制 ※研究補助の場合は、「成果の利活用方法」を記入		○メンバー構成（責任者：統括施設長、評価メンバー：管理職、生活相談員、介護職員、利用者）　○具体的実施方法（1利用延人数の確認・評価　2利用満足度調査の実施）　○自己評価結果の公表方法（ホームページに掲載）		

補助事業の結果・成果により、補助事業の目的達成を図ります。

事業終了後に自己評価（4／5～5／5）を実施してください。

別紙・JKA補助事業　平成25年度　事前計画／自己評価書（4／5）

自己評価Ⅰ作成日	平成25年9月19日	作成者	竹田圭介
自己評価Ⅱ作成日	平成　年　月　日	作成者	

5. 補助事業の自己評価

（1）総合評価

① 自己評価Ⅰ 〔事業終了直後に、(2)個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。〕		
事業全体についての意見・所感	・当法人とJKAとの共同事業であることについて役職員間で共通理解を持ちながら計画的に実施することができた。事業完了後においては利用者・家族からもおおむね好意的な評価をいただくことができた。・本事業を通して、JKAの存在価値について理解を深めることができた。	
優れている点・課題、改善すべき点※審査・評価委員会意見が付された場合はその対応状況も記入	当ホームページを活用し、競輪補助事業について可能な限り周知活動を行った。	
その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	補助車両の使用を通じて、今後も社会福祉の向上ならびに競輪補助事業のPRに努めていきたい。	採点 4
② 自己評価Ⅱ 〔平成26年2月末時点に、(2)個別評価項目「事業の成果・波及」の状況を確認し、補助事業が最終的に目指すこと（社会的課題の解決等）の達成状況及び、今後の展望をご記入ください。〕		
補助事業が最終的に目指すこと（課題の解決等）の達成状況及び今後の展望		

事業終了後に自己評価を実施してください。

（2）個別項目評価　〔実施状況等を振り返り、個別に評価してください。〕

① 自己評価Ⅰ　② 自己評価Ⅱ 〔個別の評価項目について、事前計画の達成状況等を把握し、分析・評価してください。〕				
① 自己評価Ⅰ 受益者（ニーズ）	12年以上使用し老朽化した旧車両を更新することができ、以前に比べ安全性が向上するとともに、使いやすさ、快適性が向上した。また、より重度の利用者の送迎を可能とする車両に更新することができた。			採点 4
① 自己評価Ⅰ 事業内容				
事業の新規性または継続の必要性	当地域では、競輪マークを付けた福祉車両を見かけることが少なかったこともあり、実際の送迎運行を通して一般市民への競輪補助事業に対する周知活動に十分貢献できるものと感じている。実際、地域の方々より「新しい車になったね」との声をかけていただく場面があった。			採点 4
事業の発展性	今回の車両の更新により、ご利用者の皆様から「乗り心地がよくなった」「手すりがたくさんついて乗り降りしやすい」等の声をいただくことができた。また、以前の車両に比べ乗車定員が増えたことから、より効率的・効果的な送迎運行体制が実現できるものと考えている。			採点 4
実施計画・体制	法人管理部門により、計画通りに入札を実施し、業者と契約を行い、納車を迎えることができた。また、納車後は安全運転管理者である統括施設長を筆頭に、利用調整役である生活相談員、安全運行を担当する運転手、送迎介助を担当する介護職員がチーム一丸となり送迎体制が実施できていると考える。			採点 4
達成目標	［達成値］	［達成状況］	［具体的内容］	
① 自己評価Ⅰ 事業の実施結果	平成25年9月中	100%	入札、業者決定・契約、納車と計画的に進めることができた。併せて現場スタッフには9月上旬での納車予定であることを早めの段階で伝え、万全の体制で納車を迎えることができた。	採点 4
② 自己評価Ⅱ 事業の成果・波及				採点
情報発信 ① 自己評価Ⅰ	［達成値］	［達成状況］	［具体的内容］	
事業の結果	1. 600部 2. 160部 3. 500アクセス	1. 60% 2. 60% 3. 100%	1. 当該車両を主に利用するショートステイ利用者及び家族に通知文を配布。9/30発行の施設広報紙に掲載予定。 2. 9/6法人役員会で完了報告実施。全職員に周知。9/30発行の施設広報紙に掲載予定。 3. 内定通知時、入札実施時、納車時の3回、法人HPに記事を掲載した（月平均994アクセス）	採点 4
競輪・オートレース補助金による事業であること	1. 600部 2. 160部 3. 500アクセス	1. 60% 2. 60% 3. 100%	1. 当該車両を主に利用するショートステイ利用者及び家族に通知文を配布。9/30発行の施設広報紙に掲載予定。 2. 9/6法人役員会で完了報告実施。全職員に周知。9/30発行の施設広報紙に掲載予定。 3. 内定通知時、入札実施時、納車時の3回、法人HPに記事を掲載した（月平均994アクセス）	採点 4
① 自己評価Ⅰ 自己評価の体制※研究補助の場合は、「成果の利活用方法」を記入	施設内メンバー（統括施設長、事務長、介護課長、生活相談員、介護主任、運転手）に加え、当ショートステイご利用者からも参加いただいた。また、参加する利用者の方々以外の方々からも事前に意見を聞き評価に反映させた。評価結果については今後、ホームページに掲載予定である。			採点 4

別紙・JKA補助事業　平成25年度　事前計画／自己評価書（5／5）

（3）事業の促進・阻害要因の自己分析　（① 自己評価　Ⅰに併せて実施してください。）

● 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」または「阻害」欄に「＊」を記し、要因の内容を (a) 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを (b) 欄に、それぞれの要因分類の番号(1)～(15)を付して、具体的にご記入ください。

● 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「＊」を記し、その理由をご記入ください。

事業終了後に自己評価を実施してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	(a) 促進または阻害要因の具体的な内容	(b) 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部要因			(1) 経費	チーム間で意思統一を図って事業をすすめた結果、予定よりも1ヶ月程度早く納車を完了することができた。	今後もチームワークを大切にした事業運営を心がけていきたい。
			(2) 実施体制（人員、関係機関の協力等の確保）		
			(3) 資材調達（事業実施に必要な物資等の確保）		
	＊		(4) 実施期間（事業終了までに要する期間）		
			(5) 事業運営のノウハウ（進捗管理、資金管理等）		
			(6) 設計仕様の変更（主に建築）		
			(7) その他		
外部要因			(8) 受益者の規模・ニーズ		
			(9) 実施体制以外の団体等の協力・支援		
			(10) 関連法制度の変更		
			(11) 利害関係者（受益者以外）の要望への対応		
			(12) 災害の発生（地震、洪水等）		
			(13) 同様の技術開発		
			(14) 競合するサービス・事業の出現		
			(15) その他		
			(16)		